

日本とサモアの「もったいない！」

学 校 名：堺市立東百舌鳥中学校 指導時数：5時間
名 前：宮澤 真優（英語） 対象学年：中学1年生
実践教科：道徳・学級活動など 対象人数：40人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

サモアでの人々の生活に触れ、「日本はめぐまれている」「日本は暮らしやすい」という考え方が変わった。サモアの人々は、便利な生活こそしていないが、幸せそうで、人柄も大らかな人が多く、何と言ってもサモアの子どもの笑顔は明るく幸せに満ち溢れていた。サモアの人々の心の豊かさを感じ、日本人が忙しい生活の中で忘れていたものがサモアにはたくさんあると気付かされた。もちろん、島国ならではの共通の課題、お互いの国からサモアと日本の独自の課題も学ぶことができた。ゴミや教育に関する課題なども、様々な国の協力を得て改善している部分も見えた。便利さだけを求めず、サモアの伝統や、自然、人々の心の豊かさを守りながら、協力していく必要があると感じた。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

生徒には、今の生活が当たり前ではなく、世界には多様な価値観や生き方があることを伝えたいと日頃から感じていた。サモアに関する授業をするにあたっては、まず自分の感動したこと、驚いたことを素直に生徒に伝えることにした。

今回のテーマである、「もったいない」の授業をするにあたっては、日本人が昔から持ち続けている「物や自然への感謝の気持ち」や、日本人も自然と共に生活していたことをまず伝えた。生活が便利になる中で忘れてしまった気持ちをもう一度思い出し、自分たちの生活を多方面から見直す機会にしたかった。日本の昔と今、そして現在のサモア、3つの「もったない」を通して見えてくるものを生徒が自ら発見し、少しでも自分の生活や行動を変えていくきっかけになればと思い授業を進めた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアの子もたちに 日本を紹介しよう！ *伝えたい日本は？	<ul style="list-style-type: none">● サモアについて● 日本についてのブレインストーミング● 伝えたい日本を絵にする。	<ul style="list-style-type: none">● ワークシート● 画用紙● クレヨン
2 時限目 サモアってどんな国？① *さまざまな価値観や日本 とサモアのつながりに ついて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none">● サモアの概要を簡単に説明。● サモアで撮った写真を各班に渡す。	<ul style="list-style-type: none">● サモアの写真

<p>3時限目 サモアってどんな国?② *サモアと新しい価値観について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学年全体（約320名）に向けてパワーポイントでサモアを紹介 ●途中サモアに関するクイズに答える。 ●サモアを知った感想・疑問点を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●グーグルアース
<p>4時限目 あたりまえではなく、ありがたいこと *食に関する「もったいない」を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の飢餓状況を表している地図を見る。 ●「あたりまえではなくありがたいこと」を読み、世界の子どもたちの実態を知る。 ●日本は食料自給率が低いこと、輸入にたよっていることをクイズを通して学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の飢餓状況ポスター ●ワークシート
<p>5時限目 比べよう！ 日本とサモアの「もったいない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で「もったいないばあさん」の紙芝居をする。 ●「もったいない」に含まれる意味を考える。 ●サモアの子どもたちが描いた「もったいない」の絵を読み取る。 ●日本とサモアの「もったいない」を比較。 ●「もったいない」をなくすためにはどうするかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙芝居 ●サモアの子どもたちが描いた「もったいない」の絵 ●ワークシート

3. 授業の詳細

1時限目：サモアの子どもたちに日本を紹介しよう！

ねらい…日本に対する意識を高める。
世界の中の日本を意識する。

◆内容◆

- ① サモアについて簡単に説明
- ② 日本についてのブレインストーミング

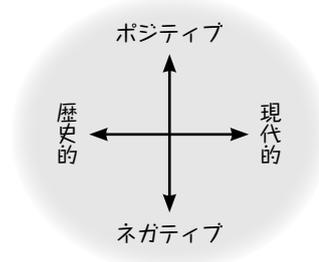
 ココがポイント！

- 日本について出てきたキーワードを、班で話し合いながら、歴史的、現代的、ポジティブ、ネガティブの4項目に分ける。
- 話し合うことで、日本に対する意識を高めることができる。

- ③ 班で伝えたいことを2つ選び、絵を描く。

生徒の反応

- ▶ 絵を描く前に「サモアに行って、サモアの子どもたちに日本を紹介するときを使う」というと、何を伝えたいかしっかり話し合っている様子だった。日本を考えるきっかけになったと思う。
- ▶ 暑中見舞いで、サモアの子どもたちが絵を持っている写真を送り、実際に絵を届けてきたことを伝えた。2学期、サモアをもっと知りたいと思う気持ちが高まったと思う。



サモアの生徒に向けて描いた絵



2時限目：サモアってどんな国？①

ねらい…写真から、サモアの生活を推測する。
サモアの生活への疑問点をたくさん引き出す。
さまざまな暮らし方があることを自ら発見する。



◆内容◆

- ① サモアで撮った写真を各班に2枚ずつ渡す。
- ② 班で写真を見て、題名・何をしているところか・場所・疑問点などを話し合う。

👉👉がポイント!

- サモアの写真を見て、自由にイメージをふくらませます。
- 班で話し合っ出てきた疑問点などを発表しクラス全員で共有。
- 教師が体験談を交えながら疑問点を解決していく。

ワークシート
班で話し合い発表

Samoa 班	
写真のタイトル	
何をしているところ?	
場所は?	
疑問点	
🇶🇲	

生徒の
反応

▶ 写真に写るサモアの生活に興味を持ち、1つの写真に対して様々な意見が飛び交っていた。しかし、授業の感想としては「なぜ、こんなに貧しい暮らしをしているのか…」などマイナスイメージを持つ生徒が多かった。島の生活を聞いて、価値観を広めて欲しかったが、写真からは生活・文化の違いよりも、日本に比べて不便な生活をしている印象の方が強く残ったようだ。

3時限目：サモアってどんな国？②

ねらい…サモアの村の生活を知り、様々な暮らし方、価値観があることを知る。
島の暮らし、抱える問題点を理解する。
サモアの人々の心の豊かさに気付く。

◆内容◆

- ① グーグルアースを使って「中学校」から「サモア」まで移動。
- ② クイズを交えながら、サモアの村の暮らし、都会の暮らしなどを紹介する。

生徒の
反応

▶ 前回の授業とは違いサモアの自然の豊かさや、時間の使い方、ファレでの生活、村の人々の親密な関係などを羨ましく思う声が多く聞かれた。また生徒から「心の豊かさ」と「物の豊かさ」は違うという意見を引き出すことができた。サモアについて興味をもち、もっと知りたいという生徒も増えた。

<p>★サモアについて調べると、昔から文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。</p> <p>★サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。</p> <p>★サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。</p> <p>★サモアについて調べると、昔から文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。</p>	<p>★サモアについて調べると、昔から文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。</p> <p>★サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。サモアの生活は、1400年と長い歴史があります。</p> <p>★サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。サモアの村は、自然が豊かだということを知りました。</p> <p>★サモアについて調べると、昔から文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。昔は文化が豊かだということを知りました。</p>
--	--

生徒の感想文

4時限目：あたりまえではなく、ありがたいこと

ねらい…食を通して、日本での生活は他のたくさんの国々によって支えられていることを知る。

日本の生活が当たり前ではなく、ありがたいことだということに気付く。
世界の食糧問題を知り、自分たちに出来ることを考える。

◆内容◆

- ① 「あたりまえではなくありがたいこと」を読む。
- ② 世界の食糧不足の現状、日本で食べているものの多くが外国から輸入されているものだという事に気付く。
- ③ 自分たちには、これから何が出来るのかを考える。

👉👉がポイント!

- 日本の食糧自給率を他の先進国と比べる。
- 開発途上国からも多くの食糧を輸入していること、多くの食糧が捨てられていることを知る。



生徒の反応

- ▶ 日本の食糧自給率の低さに驚いていた。サモアの村の自給自足の生活に学ぶべきだという意見も出た。生徒の中には、食べ物をこんなに捨ててしまうのは「もったいない」と感想を書いている生徒もいた。次の授業への橋渡しもでき、生徒も何が出来るのか考え始めた様子だった。

5時限目：比べよう！日本とサモアの「もったいない」

ねらい…食を通して、日本の生活は他のたくさんの国々によって支えられていることを知る。

日本の生活が当たり前ではなく、ありがたいことだということに気付く。

◆内容◆

- ① 英語で「もったいないばあさん」の紙芝居をする。
- ② 「もったいない」に含まれる意味を考える。
- ③ サモアの子どもたちが「もったいない」をテーマにして描いた絵を見て、サモアでの「もったいない」ことは何なのかを考える。

👉👉がポイント!

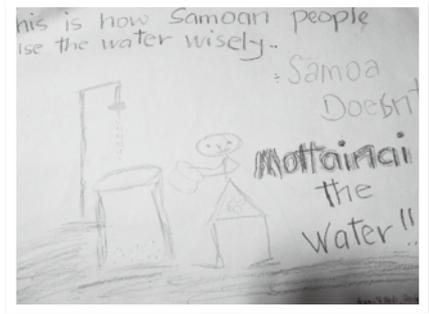
- 日本とサモアでは「もったいない」ということも違うかもしれない。それを発見する。
- 「もったいない」をキーワードに日本とサモアの共通点や異なっていることを考える。
- 「もったいない」ことをなくすには、どうすればいいのかまで考える。

生徒の反応

- ▶ サモアの子どもたちが描いた絵に興味津々の様子で、絵が意味すること熱心に考えていた。
- ▶ サモアの子どもたちが考える「もったいない」は意外なものも多く生徒はたくさんの意見を出し合いながら絵の意味を読み取っていた。

《サモアの生徒が「もったいない」をテーマにして描いた絵とワークシート》

サモアの子どもたちが描いたもったいないの絵



題名: 海にゴミを捨てている

○どんな場面?
海にゴミを捨てている場面

○何を「もったいない」と言っている?
海にゴミを捨てて自然破壊にながるのがもったいない

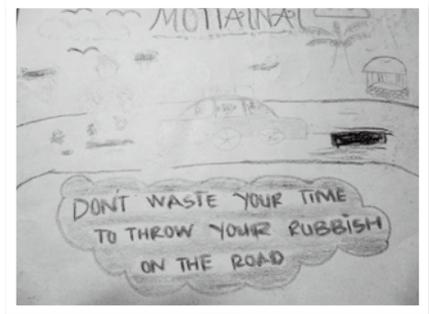
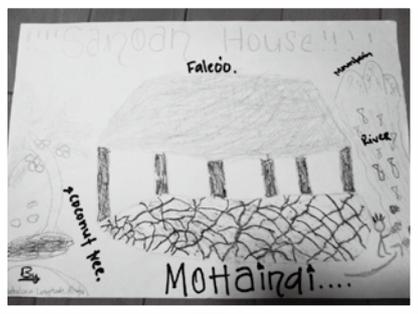
題名: 水がかい

○どんな場面?
水がなくて困っている。

○何を「もったいない」と言っている?
水を使い過ぎてもたない。

日本の子どもたちが考えた絵の意味

サモアの子どもたちが描いたもったいないの絵



題名: サモアの家

○どんな場面?
サモアの家周りの風景。

○何を「もったいない」と言っている?
川にゴミを捨てている。

題名: 時間の無駄

○どんな場面?
ゴミが散らばっていてTAXIに来ている場面

○何を「もったいない」と言っている?
時間を無駄につかっているのがもたない。
再利用ができるものを捨てているのがもたない

日本の子どもたちが考えた絵の意味

生徒の感想

- ▶ サモアにも、時間やお金ももったいないと思う感覚があることに驚いた。
- ▶ 日本よりも、自然に対する「もったいない」という気持ちが強いと思った。

◆所感◆

教師海外研修に参加するまで、サモアは私にとって未知の国同然であった。サモアに行くまでも国について調べたり話を聞いていたが、あまりイメージができないまま飛び立った。サモアでホームステイをしたアマイレ村では、人々は大らかで笑顔にあふれていた。先進国でありながら、日本で時間に追われ、慌ただしく生活している人々のことを思い出すと、どちらが幸せなのだろうかという疑問も出てきた。発展することによって得るもの、失うものがあることも、自分自身改めて感じた。今後サモアが発展していき、今ある問題が解決されると同時に、サモアの伝統文化や豊かな自然が減ってってしまうのではないかと不安も残った。今回「もったいない」というキーワードを通してサモアと日本を見つめることで、お互いに共通している考えかたが意外に多いこと、また日本人が忘れがちな自然への感謝の気持ちを、サモアの人々は今現在も持ち続けているのだということを感じることができた。

4. 成果と課題

今回授業をするにあたっては、生徒に自ら考えさせ、生徒が感じることを大切に授業を進めていくことを意識した。そのため、ワークショップや班活動などを多く取り入れ、生徒同士が意見を言い合い、話合える環境作りを大切にした。2回目の授業「サモアってどんな国？①」ではサモアの写真を見て、何をしている場面なのか、疑問点などを自由に話し合わせた。この段階で生徒はサモアに対してあまり良いイメージを持っていなかったが、それでも否定せずに次の授業に進んだ。3回目の授業は学年全体約320名に向けてパワーポイントを使い一斉に授業を行った。3回目の授業では2回目と正反対の反応が見られた。「サモアに行ってみよう」や、「自然が豊かで羨ましい」「とても幸せそうだ」「自然と共に生活している」などサモアに対してのイメージが変化したことを感じとれた。また、4回目の授業で世界の中での日本の食糧事情を知ったときには生徒は日本の自給率の低さに驚いていたが、毎日十分な食糧が手に入ることがありがたいことなのだ気付いた。5回目の授業では、生徒は今までに得たサモアの知識をもとに、サモアの生徒が書いた絵の意味を理解し、お互いの国の「もったいない」について意見を出し合うこともできた。今回の研修を通して、改めて生徒自らが気づき考えることが、行動を変えていく近道なのだ改めて感じた。

生徒の考え方、価値観を広げ、世界の問題に目を向けさせるための、今後はサモアに限らず、様々な国の様子を題材に開発教育を行っていきたい。

参考文献 「もったいないばあさん」講談社
 「あたりまえ」ではなく「ありがたい」こと『アジアの子どもたちに学ぶ30のお話』より
 「世界と地球の困った現実」(日本飢餓対策機構)




1年 組 番

①「もったいない」にはどんな意味があると思いますか。
 思いつくものをすべて書きましょう。

②日本での「もったいない」

-
-
-
-
-

③サモアでの「もったいない」

-
-
-
-
-

④それぞれの違い・気付いたことなど